



ふるさと笠松の「ちょっといい話」 No.97



「第37回 少年の主張大会」が開かれました。 小学生6人と中学生6人が「熱い思い」を語りました。

平成27年6月28日(日)に笠松中央公民館の大ホールにおいて、笠松町青少年育成町民会議の主催で、少年の主張大会が開催されました。出場者のご家族を始め、学校の関係者、知り合いの方々などの大勢の聴衆の前で、12人の子は精一杯発表してくれました。以下にそれぞれの子の主張のほんの一部を掲載いたします。どんな主張だったのかを知っていただく一助になれば幸いです。



松枝小学校 永木 侖奈さん
「未来を信じる」



松枝小学校 片桐 悠喜さん
「ぼくとサポーターさんと110番の家」



笠松小学校 栗本 光琉さん
「地域の伝統をつなぎたい」

「君たちはもっと未来を信じていい。」本に書いてあった言葉だ。私をクラスのリーダーに推薦してくれる人がいた。期待に応えたい。自分の未来も友達の未来も信じて、成長していきたい。

落ちこんでいるとき、サポーターさんの大きな声に励まされた。110番の家を訪れた時も、温かいあいさつに励まされた。いつでもどこでも誰にでもあたたかいあいさつが出来る自分になりたい。

お奴祭りに参加した。父がいつも祭りに参加しているから、私も父のように伝統をつなぎたいと思ったから参加した。中途半端な気持ちではなく、伝統をつないでいける笠松町の一人になりたい。



笠松小学校 高橋 健太さん
「地域の中で育つぼく」



下羽栗小学校 田中 優翔さん
「笠松町に住んで」



下羽栗小学校 内藤 彩加さん
「地いきとのつながり」

恥ずかしがり屋だったぼくは、①神社の掃除②お神輿③ラジオ体操④Eボートなどの地域の行事に参加することで、恥ずかしさを感じなくなった。大きな声であいさつ出来るようがんばっていきたい。

ぼくはいろんな町の人に助けられて生活している。見守り隊やゴミ処理の人、羽栗野球部でボランティアで指導をくださる人たち。多くの地域の方々に支えられている。地域の人役に立ちたい。

地域の人ともあいさつできるようにしたい。地域でみこしを作ったとき達成感があった。神社をきれいにしたとき気持ちがよかった。身の回りもきれいにしたい。地域の人とつながっていききたい。



6人ともとても堂々と自分の思いを主張できていました。身振り手振りを交えて発表できました。これからも今まで以上に自信を持って生きてください。よい主張を聞かせてくれてありがとう。(感謝)

「第37回 少年の主張大会」中学生の部

笠松中の生徒6人が「熱い思い」を力強く語りました。



笠松中学校 佐伯 尚哉さん
「平和に向かって」

現在、世界は平和ではない。平和な世界を目指して訴えていきたい。核兵器は一瞬にして人の命を奪う。テロが無差別に行われることも許しがたい。平和な明日を作るのは、次は僕らの番だ。



笠松中学校 都竹 優花さん
「支え合う地域へ」

川崎市の少年事件は深い問題がある。町の人には顔に傷やアザがある少年に声を掛けただろうか。私は駅であいさつ運動をしているが、家族、地域の人、学校の仲間などの周りの人を大切にて生きたい。



笠松中学校 片桐 早稀さん
「教室の中の私たち」

学校は戦場である。ある本に書いてあった。いじめをなくすためには・大人に頼ること・自立し強くなることが大事。子どもの世界は甘くない。自分を変えることで明日の教室は変わる。



笠松中学校 西松 新さん
「感謝を伝えるあいさつ」

人から何かをしてもらうことは当たり前ではない。人は一人だけでは生きてゆけない。周りの人に感謝しなくてはいけない。周りの人にだけでなく、食べ物などにも感謝していきたい。



笠松中学校 荒木 咲良さん
「平和への願い」

海外のニュースをもっと知らせたい。知ることで顔の見えない誰かのために動ける人が増える。日本は昔より平和なので安心してきている人が多いが、平和の尊さを世界に発信していくことが大事。



笠松中学校 古田 彩乃さん
「今、日本がしなければいけないこと」

2020年のオリンピックでは日本のよさを外国の人にアピールできるよい機会だ。でも心配なのはオリンピック中に大地震が起きたらということだ。オリンピックの準備と地震対策を今、やりたい。



素晴らしい発表をありがとうございました。力強さを感じました。